

研究課題(テーマ)		立山高山帯における一極集中型観光による環境負荷を低減するための立山周辺域における新たな観光モデルの開発	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	准教授	鈴木浩司
研究結果の概要			
<p>立山高山帯には毎年多くの観光客が訪れている。そのほとんどは室堂や弥陀ヶ原に集中するため、観光による立山高山帯の自然への環境負荷はかなり大きいと考えられる。一方で、立山周辺域には、美女平や称名滝、百間滑といった自然豊かな場所が数多く存在し、また、立山信仰に代表される独特な歴史文化が知られている。そこで、それら観光(自然・歴史文化・技術)資源の魅力を改めて発掘し、観光客を立山周辺域に分散させることにより、観光客が立山高山帯へと一極集中する現状を少しでも是正し、高山帯への環境負荷の低減を図ることを目的とした。</p> <p>文献資料やWebサイト等を活用し、立山周辺域における観光資源(歴史文化にまつわる名勝・史跡および自然環境(景勝地))に関する情報収集を行った。さらに、立山周辺域の公共交通機関(富山地方鉄道、立山町営バス、その他バス路線)および立山駅におけるレンタカー・レンタサイクルの運用状況についても情報収集した。</p> <p>立山周辺域に点在する観光資源について、公共交通機関および自動車を使った現地調査を行い、アクセスのしやすさ、所要時間等の調査を行った。また、美女平駅周辺ブナ林内の遊歩道を探索し、歩きやすさや自然の豊かさなどについて調査した。</p> <p>調査の結果、自然資源としては美女平駅付近のブナ林、称名滝、立山カルデラ、百間滑(粟巣野)といった四季を通じて様々な景観を楽しませてくれる場所が数多く存在することを改めて認識した。美女平駅周辺に広がるブナ林は大変美しく気軽に行けるブナ林としての価値は高いだろう。称名滝も立山を代表する場所であるがバス路線の本数が少ない。立山カルデラは国内有数の大規模事業が行われており、予約制ツアーのみだが産業技術の観光資源としては価値が高い。歴史文化資源としてはやはり立山信仰および立山開山の歴史である。それらを伝える立山博物館が存在し、博物館が位置する芦峯寺一帯にはそのほかに立山信仰にまつわる多くの歴史文化遺産がある。しかし、公共交通機関は乏しく、約2km離れた千垣駅(富山地铁)が最寄り駅になる。そこから町営バス(約6分、日曜日運休)を利用するか徒歩で行くしかない(約15-20分)。</p> <p>立山駅・美女平駅を単なる通過点にしないような、それぞれを拠点とした半日-1日程度の観光プランを作成してみたが、公共交通機関を利用した場合はその行動がかなり制限されてしまうのが難点である。</p>			
今後の展開			
<p>立山周辺域には高山帯の魅力に負けない独自の魅力ある歴史文化・自然・産業技術に関する観光資源(博物館や景勝地)が多数存在することが分かった。各機関や自治体はそれぞれその魅力をアピールしているが、お互いの連携はなく、立山山麓地域にかかわる関係者全体で地域全体の魅力をアピールする必要がある。今後は具体的な観光プランや魅力を発信することで立山駅や美女平駅を単なる通過点としないような取り組みを行う。</p>			